令和６年度

学校自己評価報告書

令和７年５月

久留米大学医学部附属
臨 床 検 査 専 門 学 校

令和６年度学校自己評価について

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校は、創立 57 年の歴史と伝統を持つ学校です。医学部附属の特長を活かし、時代のニーズに合った講義の充実と実践的な技術養成のため実習重視の教育によって、医療人そして社会人として必要な豊かな人間性を育み、医療の現場の最前線で活躍できる臨床検査技師の育成を目指して参りました。

本校ではその取り組みの中で、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を見直し、現状と課題の把握及び改善策の検討･実施を行っています。

評価は、学生による教員評価アンケート、新卒者の臨床検査技師国家試験の合否結果と就職状況、臨地実習指導者会議及び保護者の会役員会での結果なども参考にして行っており、この学校自己評価の結果を生かし、今後も更なる教育の質の向上を図りたいと考えています。

なお、2024 年（令和６年）には本学の臨床検査技師養成機関の発展的改組を行い、医学部医療検査学科を開設いたしました。これに伴い、本校では、2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止したため、令和６年度の在校生は 2，3 年生のみとなりました。2025（令和 7）年度は本校最後の学年となる 3 年生への教育・学校生活、国家試験対策、就職支援について、責任を持って全力で指導する所存ですので、今後ともみなさまのご理解とご支援のほどお願い申し上げます。

１．対象期間

令和６年 ４月 １日　～　令和７年３ 月　３１ 日

２．実施方法

(1)「久留米大学医学部附属臨床検査専門学校教務会」の学校長、教務主任、専任教員及び事務職員によって評価を行う。

(2)　委員構成

議　長：校長

委　員：臨床検査専門学校　教務主任、専任教員及び事務職員

評　価：「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行う。

(3)　評価は、年一回５月に行う。

(4)　評価結果の公開は、報告書をホームページに掲載することによって行う。

３．自己評価の項目

自己評価は、以下の 10 項目を実施する。

(1)　教育理念・目標

(2)　学校運営

(3)　教育活動
(4)　学修成果
(5)　学生支援
(6)　教育環境
(7)　学生の受入れ募集
(8)　財務
(9)　法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献

4．評価項目に対する評価

評価は、次の 4～1 の点数で評価記載。

4：適切、3：ほぼ適切、2：やや不適切、1：不適切

5．自己評価結果（令和 6 年度）

(1) 教育理念・目標

①　評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の理念・目的・育成人材像は明確であるか	4
b	学校における職業教育の特色は何か	4
c	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	教育目標、育成人材像は、業界のニーズを踏まえているか	3

②　状況及び課題と改善策

a.　学校の教育の理念・目的・育成人材像については明確に定められ、シラバス、ホームページ上に公開している。

b.　教育目標には「時代のニーズに合った講義の充実」、「実践的な技術養成のため実習重視」を挙げている。医学部附属である特徴を生かして医学部および大学病院の講師陣による指導体制の下、実習時間を十分に確保することにより、3 年間の修業年限で卒業後に即戦力となり得る人材の育成を図っているのが特色である。

c.　本校の母体である久留米大学は、次世代型臨床検査技師の育成へ対応するための将来構想のもと、令和 6 年度に医学部内に 4 年制の医療検査学科を開設した。新学科は、厚生労働大臣の承認を受けた臨床検査技師養成校として、令和 6 年度には 1 期生 77 名、同 7 年度には 2 期生 85 名を受け入れている。新学科では、本大学の特色を活かして医学部と附置研究所、および文系学部の教育研究力を活用し、質の高いメディカルテクノロジー（臨床検査）教育、医学部連携プログラムによる多職種連携教育、全学的文医融合プログラムによるヘルスサイエンス（健康科学）教育を行い、社会のニーズに対応し医療や医学研究へ貢献することができる臨床検査技師の養成を目的としている。

d. 教育目標、育成人材像については、医療業界のニーズを踏まえて作成されている。学校は、久留米大学医学部と大学病院、学外の臨地実習先と密に関わり、日本臨床検査学教育協議会に所属して最新の臨床検査技師養成の動向を入手するなどにより、現場のニーズを感知できる体制づくりをはかっている。

令和 3 年 10 月には、医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の業務拡大（タスク・シフト/シェアリング）を定めた法改正が施行され、令和 4 年度以降の入学生対象の臨床検査技師養成カリキュラムも改正された。これに伴い、シラバスやホームページに明記する具体的な教育目標にも改正内容を反映させている。

(2) 学校運営

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	目的等に沿った運営方針・事業計画が策定されているか	3
b	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
c	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3

② 状況及び課題と改善策

a. 本校が所属する久留米大学では、建学の精神を「国手の矜持は常に仁なり」と定め、各分野での優れた実践的人材（国手）の育成に努めている。本校においても、医学部附属の機関として、目的に沿う運営方針、事業計画を策定している。

b. 本校の管理運営を円滑にはかるため、学校長の諮問機関として運営委員会を設けており、内規を定めて運用している。運営委員会の委員は、学校長、教務主任、講師会の幹事、医学部長、附属病院長、臨床検査部長、事務局長および医学部事務部長をもって組織しており（久留米大学医学部附属臨総検査専門学校運営委員会内規第 2 条)、学校運営における意思決定機関として有効に機能している。

c. 教育活動等に関する情報としては、教育目標、教育課程モデルプラン、授業計画（講義シラバス)、試験と成績評価法、実務経験のある教員等による授業科目一覧表をホームページ上に公開している。

なお、情報公開の一手段としてこれまで活用してきた学校・入試案内パンフレットについては、2024（令和 6）年度以降の募集停止と共にその役目を終えたため、作成していない。

(3) 教育活動

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3

b	教育理念、育成人材像やニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
c	カリキュラムは体系的に編成されているか	3
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
f	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
g	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

② 状況及び課題と改善策

a. 教育課程の編成・実施方針等は、教育理念等に基づき策定されている。また、時代の変化を受けて臨床検査技師等に関する法律が改正され、これに基づく令和 4 年度以降の入学生対象の臨床検査技師養成カリキュラム改訂にも対応しながら教育課程の編成・実施方針を改訂した。令和 6 年度には、令和 4 年度に入学した学生達が 3 年生となったことにより、全学年で新カリキュラムを実施した。

b. 育成する人材像やニーズを踏まえた臨床検査科としての教育到達レベルについては、シラバスやホームページなどに示している。

また、本校はカリキュラム改訂前から各学年当たりの単位数が多かったため、令和 4 年度のカリキュラム改訂時には、学習内容や履修順序を見直して授業のスリム化と効率化を図ることにより、学生の自学自修時間を確保した。それにより、新たな臨床検査技師養成所指導ガイドラインの基準に従いつつ、卒業要件となる単位数は改訂前の 118 単位を維持している。

c. カリキュラムは、教養を含む基礎分野、専門基礎分野、専門分野が体系的に履修できることをねらいとして編成され、シラバスに明示している。カリキュラム体系図としても可視化し、ホームページ上に示している。

d. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムが編成され以下のように実施されている。

【法改正に対応したカリキュラムの実施】

令和 6 年度は、医師の働き方改革を受けて行われた法改正に対応する新カリキュラムを、在籍する 2 年次、3 年次にて滞りなく実施した。さらに、3 年生のうちカリキュラム改訂前に入学した 2 名には、法改正に基づく令和 7 年度臨床検査技師国家試験受験資格を取得するため、『学生向けタスク・シフト/シェアに関する厚生労働大臣が指定する研修会』を修了させた。Web による講習を修了したのち、実技講習会を専任教員の付添の下、受講させた。実技講習会は、九州医療科学大学（延岡市、9 月 1 日）、九州大学（福岡市、9 月 18 日）に 1 名ずつ受け入れていただいた。

【久留米大学病院の臨地実習におけるチーム医療への参加】

令和６年度から運用される新カリキュラムにおける臨地実習にて必須となる

チーム医療の見学等については、久留米大学病院および医学部の各部署のご協力をいただき、様々なチーム医療の見学の機会を拡大している。

令和４年度からは医療安全会議への参加、令和５年度から ICT（感染制御チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）、NST（栄養サポートチーム）活動と消化管内視鏡検査、質量分析医学応用施設の見学、さらに令和 6 年度には臨床工学センターの見学が加わり、大学病院で実習する学生がすべて経験できるように企画・実施している。令和 7 年度には、新たに糖尿病療養指導の見学も加わる予定である。

【臨地実習開始前の指導】

接遇研修を行い、心構えとマナーを学生に実践的に再確認させるとともに、日本臨床検査学教育協議会が推奨する『臨地実習前技能修得到達度評価』の実施基準に準拠したトレーニングと実技評価、学生へのフィードバックを行った。

【低学年に向けた臨地実習報告会の開催】

臨地実習の終了後（10 月 11 日）、2 年生を対象に、3 年生による各医療施設における臨地実習の報告会を行った。これは、低学年のうちから各施設における臨床検査の在り方や多職種連携の様子、実習場面で学生自身に求められること、などを垣間見ることにより、各学生が早期から将来をイメージしつつ校内での学修に取り組むことを促す効果があった。そのため、令和 7 年度も引き続き、医療検査学科 1 期生（2 年生）への報告会を実施する予定である。

【医療検査学科主催の講演会への参加】

以下の特別講義を本校 2，3 年生も聴講した。

・タイトル：No AI、No 医療～学生時代からできること～
　　講師：国際医療福祉大学教授　岸　拓弥氏
・タイトル：臨床検査技師が創る未来の医療活躍シーンを教えて！
　　講師：久留米大学病院臨床検査部　横山　史美氏
　　広島市民病院　臨床検査部　薮根　悠真氏
　　熊本赤十字病院臨床検査部　山崎　卓氏
　　グラクソ・スミスクライン会社メディカル本部　北原　陽介氏

【学生の学会参加支援】

令和 6 年度の第 73 回日本医学検査学会の講演のオンデマンド配信が養成校対象にも実施されたことを受けて、16 演題を年 5 月 29 日～6 月 21 日の期間に 2 年生教室で放映した。そのうち 8 演題は 2 年生の講義中に放映し、受講者全員が聴講する機会を設けた。

e.　学校自己評価に対する外部関係者の評価については、令和 2 年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を毎年開催することと定め、実施している。

また、臨地実習終了後に臨地実習指導者会議を行うことにより、臨地実習先

の各病院から、その年派遣した学生に関する講評、および本校での学生教育の在り方についての評価と助言をいただいている。令和6年度は、対面およびオンラインのハイブリッド形式で臨地実習指導者会議を実施し、臨地実習の在り方についての意見交換を行い、次年度の実施条件等について協議した。

f. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められ、シラバス、学生と保護者に配付される「学生生活」に明記し、ホームページ上にも公開している。

g. 令和6年度における、教員の能力開発のための研修参加実績は、以下のとおりである。

【教員の研修会・講演の受講、学会参加等による、教育・実務に関する研鑽】

以下の学外の研修会、講演等を受講して、『新カリキュラム』の在り方（臨地実習関連を含む）や臨床検査学の各分野における教育研究について新しい知見を得るとともに研鑽を行った。

・日本臨床検査学教育協議会の教員研修会①（5月27日　Web配信）。
　タイトル：臨地実習前の個人情報保護に関する学生指導と養成校教員の留意事項について

・第18回 日本臨床検査学教育学会学術大会（8月23-24日　新潟大学）
　学会テーマ：多様化する医療現場を見据えた知技の学び

・第58回 日臨技九州支部医学検査学会（11月9-10日　鹿児島ｻﾝﾛｲﾔﾙﾎﾃﾙ）
　学会テーマ：Take the next step～未来へ踏み出す大きな一歩～

・日本臨床検査学教育協議会の教員研修会②(令和7年3月18日 Web配信)。
　タイトル：新制度の臨地実習について～初年を終えて～

・臨床検査技師育成における医療安全教育FD（令和7年3月4日Web配信）
　群馬大学多職種人材育成のための医療安全教育センター主催

また、厚生労働省が認定する臨地実習指導者講習会（日本臨床衛生検査技師会と日本臨床検査学教育協議会の共催）に協力し、専任教員（吉野）が、12月15日に世話人（グループ討論のファシリテーター）として参加した。これにより臨地実習受け入れ施設との連携の在り方について、養成校の立場からも学びつつ、令和7年度の本校の臨地実習の企画に反映させている。

その他に、日本臨床衛生検査技師会に所属する教員は、各専門分野における講演会、研修会に参加する（Webによるものを含む）など、適宜、臨床検査の現場に必要な最新の知識を得るようにつとめた。

【臨床検査技師国家試験解析研究チームへの参画】

わが国の臨床検査技師養成教育の質向上と精度の高い国家試験の実現を促すことを目的とし、令和 3 年度から山陽女子短期大学教員を主とする国家試験成績解析研究チームが全国の養成校（任意：令和3年度国家試験では38校、4年度は 40 校、5 年度は 49 校が参加）の成績を解析・フィードバックを行ってい

る。
　令和 4 年度 12 月から、本校の専任教員（吉野）がこの研究チームの正式メンバーとなり、令和 6 年度も引き続き、データ解析への協力とより適切なデータ収集・解析・公表に参画した。

【学会発表、専門家向け講演担当、学位取得】（資料１）
　教員の研究・教育活動の成果として、教員による学会発表 2 件、臨床検査分野における講演発表 4 件が行われた。また、令和 7 年 3 月 31 日付で 1 名が修士（医科学）の学位を取得した。

【学生による授業評価アンケート】
　令和 6 年度も、授業終了後の学生による授業評価アンケートの対象を 2 年次の全授業科目で行い、授業と講師の対応に関する 4 段階評価、および自由記述によるフィードバックを調査した。各講師には、アンケート結果を今後の授業の質向上に役立てていただくため、年度終了時に各講師へ送付した。

【久留米大学が実施する研修会の受講】
　本学の指針に基づき、教職員は研究倫理、ハラスメントに関する e ラーニング、対面講習会などを受講した。また、医療検査学科主催で以下のように行われた 2 回の FD に参加した。
・第 1 回（7 月 17 日）
　タイトル：これからのデジタルヘルス時代は医療データを味方につけた医療専門職が最強である
　講師：医療検査学科　准教授　小原　仁氏
・第 2 回（9 月 14 日）
　タイトル：旭町キャンパスにおける学生支援体制について
　講師：久留米大学保健管理センター　准教授　大江　美佐里氏

(4) 学修成果
① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	資格取得率の向上が図られているか	4
b	就職率の向上が図られているか	4

② 状況及び課題と改善策
a. 令和 6 年度での臨床検査技師国家試験合格率では、新卒者 100%（36 名中 36 名合格）を達成し、全国新卒者平均 94.0%を上回った。また、既卒者の全国合格率は 40.4%であったが、本校既卒者合格率は 50.0%(2 名中 1 名合格)であった。
　その他の資格等においては、毒物劇物取扱責任者を 7 名が取得し、第 2 種 ME 技術実力検定試験に 1 名、電子顕微鏡技術認定試験（二級技師）に 2 名、日本不整脈心電学会による心電図検定試験では 3 級に 1 名、4 級に 6 名が合格した。また、授業の一環として久留米広域消防署による普通救命講習を実施し、2 年生 32 名、3 年生 36 名が受講し修了証を取得した。そのほかに日本赤十字社の救急法基礎講習終了者 1 名、日本救急医学会による医療従事者・医療系学生向け ICLS

コースを１名が終了した。

b. キャリア教育については接遇研修、模擬面接指導、学校での企業説明会を随時実施しており、学生の就職活動支援についても、個々の面接試験に先立って担任を始めとした専任教員が履歴書の添削や模擬面接に応じた。なお、令和 6 年度卒業生（36 名）の就職については、34 名が希望する施設への就職を実現しており、残り 2 名については現在も就職活動中である（令和 7 年 5 月 22 日時点）。

(5) 学生支援

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	保護者と適切に連携しているか	3
f	卒業生への支援体制はあるか	4

② 状況及び課題と改善策

a. 進路・就職に関する支援体制は整備され、接遇研修や面接指導なども適時実施している。また、求人情報を電子化して学外からもアクセス可能とし、学生の利便性を図り、オンライン就職面接で使用できるパソコン、ネットワークを完備した部屋を提供している。

b. 学生相談については、保健管理センターに学生相談室及び学生支援室が設置され、各曜日に精神科医や臨床心理士が相談に応じる体制が整備されている。

また、日頃から学年担任・副担任が連携して学生の出席状況や体調の変化などを把握し、体調不良、悩みがありそうな学生へは早めに声をかけるよう努めており、専任教員や事務職員との情報共有も行っている。必要に応じて保健管理センターの相談窓口を紹介している。

c. 本校は「高等教育の修学支援新制度」の対象機関に認定されており、令和 6 年度は 9 名の学生が授業料減免を受けた。

d. 本校が設置されている本学旭町キャンパスには保健管理センターがあり各学生のメンタル面を含めた健康管理が行われている。必要に応じて保健管理センターと各学年担任が連携し、フォローを行っている。

急な発熱その他体調不良のために登校できない学生についても、当日に担任へ連絡を行うこととし、症状に応じて保健管理センターの助言を仰ぐ、近医やかかりつけ医の受診を促す、などにより、回復までの経過観察や支援を行った。また、自立歩行が困難になる体調不良者に備え、車椅子とストレッチャーも導入、稼働している。

e. 保護者の会役員会・総会を開催し、学生の教育、施設運営、その他必要と認め

た諸活動についての理解を得ることができた。なお、保護者面談については保護者の会開催日だけではなく、成績不振者に対しても随時必要に応じ対面又はオンラインで実施した。

f. 令和5年度卒業生1名に対し、臨床検査技師国家試験の受験対策を支援した。具体的には、対象となる講義の対面受講許可、模擬試験受験手配、個別指導などを行い、その結果、当該既卒生は、令和6年度の国家試験に合格した。また、同窓会と協力し、ホームページ等を利用した卒業生への情報提供を行っている。

(6) 教育環境

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	施設・設備は、整備されているか	3
b	防災に対する体制は整備されているか	3

② 状況及び課題と改善策

a. 校舎は老朽化してきているものの、必要に応じ各所の修理を行っている。

令和6年度においても、eラーニングプラットフォーム（Hondana）を利用したオンデマンド形式による遠隔授業を稼働させ、体調不良等で対面授業に参加できない学生への学修支援を図った。なお、生理検査、検体検査に関する学内実習においては、令和6年度の医療検査学科開設に伴って購入された新規の実習機器を利用させることができた。また、令和7年度には旧看護学科棟を改築した「看護学科・医療検査学科2号館」が整ったことにより、本校学生も、映像配信システムが整った講義室、自習のための協同学習室・図書室・パソコン室、歓談のためのフリースペースなどの利用が可能となった。

b. 防災体制も整備されている。また、自然災害があった場合の学生の安否確認の体制（緊急連絡用メーリングリスト、緊急連絡先名簿の作成等）についても整備している。また、消防法に定められた消防設備点検も毎年実施し、昨年度に引き続き老朽化した誘導灯の更新も実施した。

(7) 学生の受入れ募集

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学生募集活動は、適正に行われているか	
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

② 状況及び課題と改善策

ab. 本校は2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、令和7年度で閉校の予定であるため、今後の募集活動は実施していない。

c. 平成 31 年度の入学生から 5 万円増額した以降は、据え置いたままである。本校の学納金額は、近隣の私立の臨床検査技師養成校と比較して、学生に配慮されていると思われる。

(8) 財務

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務情報公開の体制整備はできているか	4

② 状況及び課題と改善策

a. 令和 6 年度においても、事業計画は実施事業の検証及び収支計画を確認した上で、中長期計画の事業意義や優先度、緊急性のある案件に限定し、学校法人全体の単年度収支を勘案して実施されており中長期的な財務基盤は安定している。

b. 充分ではないものの優先順位を考慮し有効性かつ妥当性を考慮した予算・収支計画が行われている。

c. 財務情報公開の体制整備はされており Web にも公開されている。

(9) 法令等の遵守

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
b	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3

② 状況及び課題と改善策

a. 個人情報の保護の対策はとられており、第三者への情報提供についても上長の決裁を仰いだり、授受記録を残すなどの配慮がされている。

b. 平成 30 年度から年度毎に学校自己評価報告書をホームページ上に公開している。令和 2 年度から校長、および外部関係者から構成される学校評価委員会を設置し、前年度に対する学校自己評価報告書案を学校評価委員会が検討し、公正な自己評価の実施と改善すべき問題点の抽出を行い公表し、問題点の改善に取り組んでいる。

(10) 社会貢献・地域貢献

① 評価

評価項目		評価 (4～1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3

②状況及び課題と改善策

a. 【施設・設備の活用】

昨年度に引き続き、本学の医学部医学科 4 年の臨床技能到達実習時に心電計の貸し出しなどを行った。

b. 令和 6 年度は、臨床検査技師養成課程の学生として実施できる以下の活動について、学生への助言と支援を行った。

・新学科受験希望者に向けたオープンキャンパスを 8 月（参加者 421 名）に、また、ミニオープンキャンパスを 10 月（参加者 29 名）に実施した。2 年生を中心に一部の 3 年生が課外活動として企画、準備に携わり、来場者の案内や実習実技の体験コーナーでのガイドを行い、来場者には大変好評であった。

・大学祭（第 57 回あのく祭,10 月）にて 2 年生 12 名が臨検展を企画・実施し、一般の来場者に手洗いチェックや ABO 血液型判定の体験･指導を実施した(筑水会館 1 階)。

その他、大学病院の看護助手のアルバイト及びボランティアの募集を学生に伝えた。全学年から希望する学生が応募し、外来や入院患者さんのサポートをしながら医療現場の在り方やチーム医療についての見聞を拡げる機会を提供した。

資料１　令和６年度　業績（下線部は専任教員、学校長）

【学会発表】点線は令和６年度より医学部医療検査学科専任教員（かつ５年度まで本校教員）

1. 小野寺 利恵、久保田 耕司、稲田 政則、吉野 千代. 2023 年度第 70 回臨床検査技師国家試験成績解析結果の報告. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会　令和 6 年 8 月 24 日（新潟）

2. 棚町 千代子、吉野 千代、西 昭徳. 学生と教員の視点からみた臨地実習前技能修得到達度評価. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会　令和 6 年 8 月 24 日（新潟）

3. 武谷 三恵、糸山 貴子、吉野 千代、小森 真由美、棚町 千代子、関 律子、福満 千容、前野 里子、恒松 佳代子、西 昭徳. 新カリキュラムにおける「採血に伴う静脈路確保と電解質輸液の注入」の手法及び医療安全に関する教育の工夫～久留米大学医学部附属臨床検査専門学校での試み～. 第 18 回日本臨床検査学教育学会学術大会　令和 6 年 8 月 24 日（新潟）

【講演】

1. 貞元 祐二. 睡眠段階判定・覚醒反応（成人）解析編/実技編. 日本睡眠検査学会　第 3 回講習会　令和 6 年 8 月 5 日～8 月 20 日（オンデマンド配信）

2. 貞元 祐二. CPAP 導入とその問題点. 福岡県済生会二日市病院 SAS 地域連携講演会　令和 6 年 7 月 26 日（福岡、ハイブリッド講演）

3. 貞元 祐二. 睡眠と在宅睡眠時無呼吸検査（Home Sleep Apnea Test: HSAT）　福岡地区臨床生理部門勉強会　令和 7 年 1 月 23 日（福岡、ライブ配信）

4. 貞元 祐二. 睡眠障害と終夜睡眠ポリグラフ検査（Polysomnography: PSG）　福岡地区臨床生理部門勉強会　令和 7 年 2 月 20 日（福岡、ライブ配信）

【学位取得】

修士（医科学）

1. 貞元 祐二　令和 7 年 3 月 31 日取得

研究題目：指尖容積脈波を用いた自律神経性覚醒反応指数（Autonomic Arousal Index：AAI）と周期性交代性パターン（Cyclic Alternating Pattern：CAP）との関係.